

## § 2015年度秋季大会報告

1. 2015年度秋季大会は9月9日(水)～10日(木)に酪農学園大学において盛会裏に行われた。9日(水)には公開シンポジウム「肉用鶏生産におけるアニマルウェルフェアの現状と課題」(参加者80名)が開催された。また、編集委員会、産学交流促進委員会、国際交流委員会、将来構想委員会、若手幹事会、理事会が開催された。10日(木)には一般講演、評議員会、常務理事会、総会、総会後に学会賞、奨励賞、優秀論文賞、優秀発表賞授与式および学会賞・奨励賞受賞者講演が行われた。

(大会委員長 小野珠乙会長、一般講演49題、参加者140名)

2. 理事会・評議員会および総会で報告、決定された主な事項は以下のとおりである。

### (1) 大会関係

○2016年度春季大会は、日本獣医生命科学大学において3月30日(水)に開催される予定である。

(大会委員長 對馬宣道会員)

### (2) 賞関係

○平成27年度日本家禽学会賞・日本家禽学会奨励賞  
平成27年度は、選考委員会(委員長、木野勝敏会員)における選考およびメール会議における理事会・評議員会の審議・承認を経て、日本家禽学会賞には笹浪知宏会員(静岡大学)、対象業績「家禽の受精を制御する分子群の機能に関する研究」、日本家禽学会奨励賞には後藤達彦会員(茨城大学)、対象業績「ニワトリの卵関連形質を支配する量的形質遺伝子座の解明」に授与された。

○The Journal of Poultry Science 優秀論文賞(平成26年、2014年)

編集委員会の選考および理事会の審議・承認を経て、優秀論文賞は以下の2編に授与された。

Effect of Short-Term Thermal Conditioning on Physiological and Behavioral Responses to Subsequent Acute Heat Exposure in Chicks

Hiroshi Tanizawa, Jun-ichi Shiraishi, Shin-Ichi

Kawakami, Masaaki Tsudzuki and Takashi Bungo

The Journal of Poultry Science Vol.51(1): 80-86, 2014.

Preference and Passage through the Gastrointestinal Tract of Paddy Rice in Young Chicks

Masakazu Yamanaga and Mitsuhiro Furuse

The Journal of Poultry Science Vol. 51(1):47-51, 2014.

○平成27年度秋季大会優秀発表賞

審査員の評価に基づいて常務理事会で審議した結果、2015年度秋季大会では、第1会場：南貴一会員(神戸大院農)「ニワトリ性腺の左右差形成メカニズムに関する網羅的遺伝子発現解析」および滑川晶子会員(茨城大)「レプチン情報伝達におけるSTAT3とSTAT5の相互作用」、第2会場：小山竜也会員(東京農工大院農)「ロイシン、イソロイシンの鶏骨格筋細胞分化への影響」および川口真奈会員(鹿児島大農)「ブロイラー初生ヒナへの飼料給与開始日齢が成長および腸内細菌叢に及ぼす影響」にそれぞれ授与することが決定され、総会終了後に授与式が執り行われた。

○平成28年度日本家禽学会技術賞への推薦はなかった。

### (3) 日本農学会関係

○平成27年度日本農学会大会は平成27年4月5日(日)に東京大学山上会館で開催された。また、平成27年度日本農学会シンポジウムは平成27年10月3日(土)東京大学弥生講堂において「国際土壌年2015と農学研究—社会と命と環境をつなぐ—」のテーマで開催された。

○平成27年度の日本農学会進歩賞への推薦はなかった。

### (4) 日本学術会議関係

○第23期日本学術会議畜産学分会から協力依頼があれば対応することとした。

### (5) 産学交流促進委員会関係

○平成27年9月9日(水)に公開シンポジウム「肉用鶏生産におけるアニマルウェルフェアの現状と課題」を開催した。

○平成28年度秋季大会でシンポジウムを開催する予定である。

○賛助会員の企業案内等の配架を継続して行った。また、国際養鶏養豚総合展(IPPS2015)で学会のリーフレットを賛助会員12社にご協力いただき、配架した。

#### (6) 日本家禽学会将来構想委員会関係

○新たに制定されたシニア会員と海外特別会員の入会の推移を注視し、その後の対応を考えることとした。

○国際的な情報発信を行うための検討をしている。編集委員会と合同で、PubMed への掲載、研究倫理の問題を整理中である。

○将来的な国際学会の開催を国際交流委員会および若手研究会と議論することを始めた。

○年 2 回の大会開催が妥当であるかを検討する。また、海外会員獲得や英語によるサービス及び情報発信など、事務局の事務量の増加に対して負担を軽減する体制に関して検討を始める。

#### (7) 国際交流委員会関係

○第 10 回アジア太平洋家禽学会 (APPC) に参加した若手会員の渡航費の一部補助を行った(支給済み 1 名、投稿待ち 2 名)。なお、補助金の支給は JPS への投稿を確認した後に行い、1 年の内に投稿がなければ補助を打ち切ることとした。また、この大会のコングレスバッグに学会・JPS の宣伝を印刷したリーフレット 1,000 部を入れてもらい、本学会の宣伝を行った。

○WPSA ニュースレターに海外会員枠を設けた旨のアナウンスと入会の呼びかけを行っている。

○北京で開催予定の第 25 回世界家禽会議 (2016) に関して、若手会員に対する渡航費の一部補助を行うことを決定した。

○第 11 回アジア太平洋家禽学会 (APPC) (2018) はバンコクで開催予定である。

○第 26 回世界家禽会議 (2020) はパリで開催予定である。

○2017 年度の信州大学にて開催予定の秋季大会で、近隣諸国から講演者を招聘し、ミニ国際シンポジウムの開催を検討している。

#### (8) 広報委員会関係

○学会と JPS を広報する英語版のリーフレット 2,000 部を作成した。

○学会ホームページのデザインを更新した。

#### (9) 若手研究会関係

○平成 27 年度春季大会でランチョンセミナー「題名：採卵鶏育種改良の現状と種鶏輸入の裏話」を(株)アイエスアージャパンのご協力により開催した (3 月 30 日(月)、出席者 約 60 名)。

○平成 28 年度春季大会でランチョンセミナーを日本フネン株式会社のご協力により開催する予定である。

#### (10) 家禽学用語集編集委員会関係

家禽学用語集第 1 版を編集して学会ホームページに掲載し、現在、会員からの修正を継続して受け付けている。

#### (11) 会員の移動

○平成 27 年 9 月 1 日現在の会員状況

(平成 27 年 2 月末日からの増減)

名誉会員	10 名	( )
A 会員	123 名	(+5 -16)
B 会員	193 名	(+21 -25)
A 学生会員	14 名	(+5 -5)
B 学生会員	52 名	(+21 -14)
A シニア会員	1 名	(+1 )
B シニア会員	3 名	(+3 )
外国人特別会員	2 名	(+2 )
合計	398 名	(+58 -60)
A 賛助会員	24 社	( )
B 賛助会員	11 社	( )
賛助会員合計	35 社	( )
総計	433	(+58 -60)

#### (12) その他

○大会要旨、各賞の受賞タイトルおよびシンポジウムの英語表記に関して

外国人特別会員の発足にともない、大会要旨に英文タイトルを掲載する。同様に、各賞の受賞タイトル、シンポジウムのタイトルなども英文タイトルを記載することを決定とした。それに伴い、大会申込み時に、日本語タイトルだけでなく英語のタイトルも記載する形式を取る。英文タイトルの作成が困難である場合には庶務幹事が中心になって作成し、編集委員会が補助することとした。

○規約の改正に関して

会費の未納者に関して、現在の規約では「除名」となっていたが、処分が厳しすぎるとの意見があり、「強制退会」との文言に規約を変更することが認められた。

改正点は以下の通りである。

日本家禽学会規約

##### 第 8 条 強制退会

会費を滞納したものは、評議員会の議を経て強制退会させることができる。

##### 第 9 条 除名

本会の名誉を毀損するようなことのあるものは、評議員会の議を経て除名することができる。

以下、第 9 条を第 10 条に、第 10 条を第 11 条に順次繰り下げる

附則

1. この規約は 2015年9月10日 から施行する。

日本家禽学会細則

6. 会員の強制退会および除名に関する事項

附則

この細則は 2015年9月10日 から施行する。

○科研費の申請に関して

次年度からの科研費の申請は、「国際情報発信強化」の種目で提出しなければいけないため、これまでの内容・形式とは異なる。本年までは、会計幹事が中心となって申請してきたが、これを獲得するためには編集、広報、国際交流の各委員の協力が必要である。本学会では、すでにフリーアクセス、若手の海外渡航補助、インパクトファクターなどの国際情報発信強化を学会独自で行っている。国際シンポジウムの開催や The Journal of Poultry Science の PubMed への申請を柱として、事務局が取りまとめ、各委員の先生方にご協力を頂いて申請することとなった。

(13) 編集関係

○The Journal of Poultry Science 誌第 52 巻 2 号～第 52 巻 3 号、日本家禽学会誌 52 巻 J1 号、ニュースレター16号、講演要旨 2 冊（春季大会号・秋季大会号）を発行した。

○The Journal of Poultry Science の 2015 年インパクトファクターが公開された (IF=0.802)。

○投稿規程の改定について

JPS の Instruction for Authors に Supplementary Information に関する項目を追加した。また、投稿時に Preferred reviewer を 2 名推薦することを義務化することとした。

○編集体制および Section Editor の権限を見直した。

○PubMed 申請 WG を立ち上げた。

(14) 会計関係

○平成 24 年度～平成 27 年度までの科研費補助金（研究成果公開促進費）「学術刊行物」の交付が内定しており、平成 27 年度分が交付された。

○平成 27 年度の会計は、予算に従い順調に消化されていることが紹介された。

## § 2016 年度日本家禽学会賞および同奨励賞候補者の募集について

2016 年度両賞の受賞候補者推薦を募集している。締め切りは 2015 年 12 月 31 日（木）で、期日までに選考規程を参照して候補者の推薦をお願いしたい。なお、奨励賞については 2016 年 4 月 1 日現在において、満 40 歳以下の方が対象となっているので、ご注意ください。

## § 2016 年度（一財）旗影会研究助成募集要項について

### 【研究助成の対象】

1. 一般助成（以下の分野に関する研究）
  - a) 畜産（生産および加工）
  - b) 農産（生産および加工）
  - c) 食品工業（食品工学、食品化学、食品機能、食品衛生、調理科学など）

2. 特別助成

一般助成に示す分野のうち、タマゴに関する研究

### 【助成金額および採用予定件数】

一般助成	100 万円/件	40 件程度
特別助成	200 万円/件	10 件程度

### 【応募期間】

2015 年 12 月上旬～2016 年 1 月 29 日（金）※必着  
詳しくは下記 HP を参照してください。

<http://www.nakashima-foundation.org/kieikai/>